

# 令和8年度 岩出市学校教育の指導方針と重点 『未来に輝く子供を育てるために』

## めざす子供像（小中9年プラン）『将来に向けた生きる力をもった子供』

子供たちが変化の激しい社会を生き抜き、未来を切り拓くために必要な力を育むことを目指します。

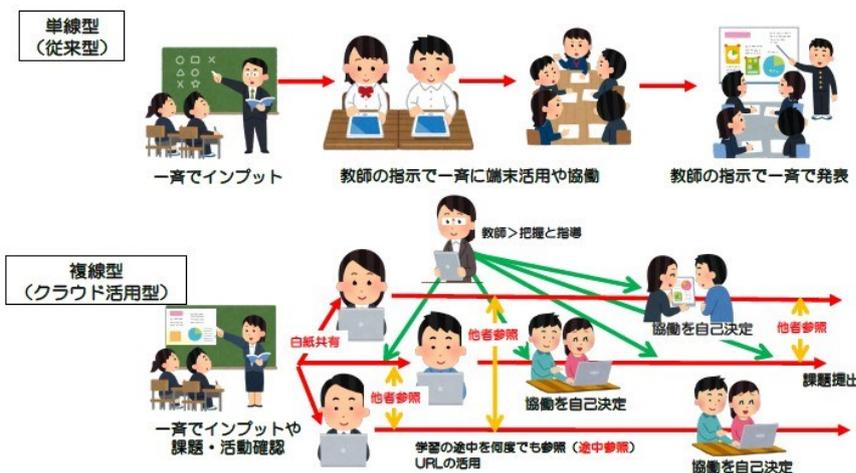
- 持続可能な社会の創り手の育成
- 教育活動全体を通じたウェルビーイング\*1の向上  
(岩出市教育振興基本計画)

## (1) 主体的で対話的で深い学びの実現による子供の資質・能力の育成

～ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～

### ○ 「単線型（一斉）授業」と「複線型授業」を組み合わせた授業改善

※ 「単線型（一斉）」と「複線型」を組み合わせた授業改善に努める



『複線型授業』の手引き  
(岩出市教育委員会)



『複線型の授業』 『複線型の授業』の詳細

図6 単線型（従来型）と複線型（クラウド活用型）の授業展開の例 出典：高橋 純（2022）

出典：Google for Education

※ 子供たちの自己決定を尊重し、情報活用能力を育成しながら、3つの資質・能力を育む

### ○ 「探究サイクル」（自立した学習者を育成）

【 ①課題設定 → ②情報の収集 → ③整理・分析 → ④まとめ・表現 】

※ どの教科においても、探究的な学習を通して、子供たちが学びの自己決定、主導性を自覚することで、生涯にわたり学び続ける力を育成することに努める

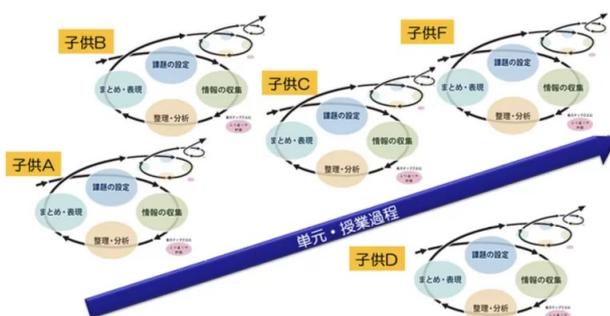


図2 子供が学習過程を自己決定

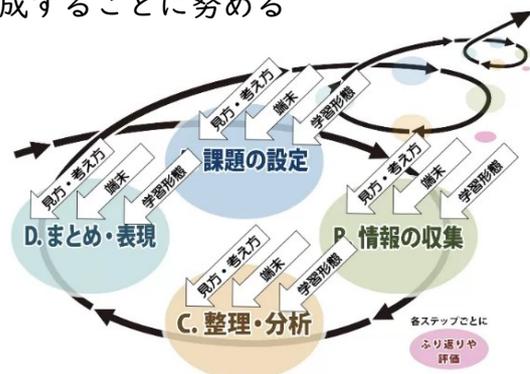


図3 学習過程を豊かにするために端末、見方・考え方、学習形態等の工夫を加える

## (2) 特別支援教育

障害のあるなしに関わらず、様々な特性や個性のある子供たちが共に学ぶとともに、一人一人の特性やニーズを児童生徒、保護者とともに正確に把握し、将来的な自立と社会参加を見据えた、柔軟で連続性のある多様な学びの場の整備。

- ・「多様な学びの場」の提供（交流および共同学習）
- ・特別支援学級における教育課程の質の確保（アセスメント・自立活動の充実）
- ・「校内支援委員会」の充実と「つなぎ愛シート」「個別の指導計画」の活用促進
- ・各種研修、センター的機能等を活用し、多様性を包摂する教育環境の充実とその実践のための人材育成

## (3) いじめ・不登校対応

～ 命を大切にできる心や他人を思いやる心、感動する心など、子供の豊かな人間性の育成 ～

### ○ 成長を促す発達支持的生徒指導

### ○ 子供同士のピアメディエーション\*2・教員による修復的アプローチ

#### 1 いじめ対応（いじめ防止対策推進法より）

- ① 疑われるときは、「学校いじめ対策組織」へ報告（抱え込みは許されない）  
    << 迅速かつ適切な対応 >>
- ② 学校は速やかにいじめの事実の有無を確認
- ③ 被害児童生徒またはその保護者への支援  
    + 加害児童生徒への指導またはその保護者への助言
- ④ 被害児童生徒が安心して教育を受けられるために必要な措置（別室指導等）を検討
- ⑤ いじめに係る情報を、加害児童生徒・被害児童生徒双方の保護者と共有

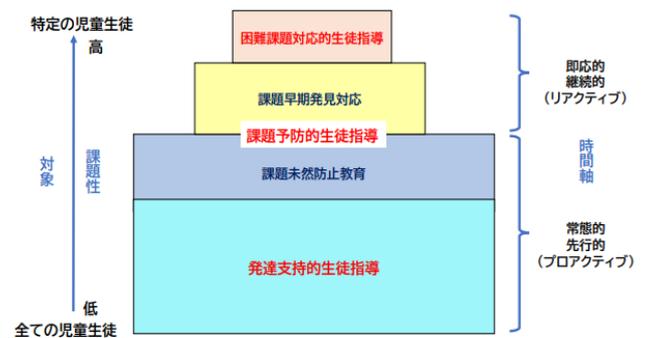


図2 生徒指導の重層的支援構造

出典：文部科学省『生徒指導提要』2022年12月（第1.0.1版）

#### 2 不登校対応

- ① 生物・心理・社会モデル（BPSモデル\*3）によるアセスメント
- ② 児童生徒の支援ニーズの早期把握  
    ～ 「居場所づくり」から「絆づくり」へ ～ 「心理的安全性」と「信頼関係」の形成
- ③ 学校は、教育支援センター「フレンド」と連携することで、児童・生徒とのつながりを継続

### 3 児童虐待の防止

※ 関係機関（SC・SSW、警察署、児童相談所・こども家庭センター）との連携強化と早期発見・通告等対応の徹底

### 4 特別の教科 道徳・・・考え議論する。

認められる→自己有用感  
自己決定による自己指導能力

- ① 教師の働きかけ：主題にせまる発問  
（問い直し・問い返し・掘り起こし・切り返し・揺さぶり・くい込み）
- ② 自己の生き方につなぐ。
- ③ 他者との対話で深める・自己調整力
- ④ 道徳が温かい時間、安心できる時間につながる

### ○ 自殺予防教育の観点→子供の SOS の出し方に関する教育

子供が他人の援助を求める力・弱音を吐く力・逃げる力

TALK の原則【Tel:言葉にして伝える、Ask:尋ねる、Listen:傾聴、Keep safe:安全確保】

### ○ 教育活動全体を通じ発達段階に応じた人権教育の推進

### ○ 情報リテラシーの向上に向けた実践的な教育の充実・徹底

### ○ SST（ソーシャルスキルトレーニング）\*4

## (4) 健やかな体 ～生涯を通じて心身共に健康な生活を送るために～

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」の推進
- 2 「体力向上」の取組の充実
- 3 スマートフォンやゲーム依存の「予防教育」の実施
- 4 「食育」の充実と学校給食における「衛生管理」の徹底
- 5 全人的成長を促す「部活動」の運営と「地域展開」に向けた研究
- 6 アレルギー疾患等に対応できる「危機管理体制づくり」
- 7 「喫煙・薬物乱用防止教育」の実施
- 8 感染症の「感染防止」の継続

## (5) 教職員の資質向上と働き方

- 1 「服務規律遵守」の徹底
- 2 積極的な「自己研鑽」 ～ OJT から OJL (On the job learning) へ ～
- 3 「校内研修」の充実
- 4 「指導の個別化」の推進 (子供一人一人の特性・学習進度などに応じた工夫)
- 5 授業づくりと並行した「学級経営」の充実
- 6 「特別支援教育」に関する専門性の獲得
- 7 「チーム学校」、「カリキュラム・マネジメント」の推進
- 8 「校務効率化」の推進

## (6) 地域とともにある学校、校種間連携 『つながる』

- 1 「コミュニティ・スクール」の推進 (学校運営協議会での「熟議」の実践)
- 2 家庭・地域に向けた積極的な「学校情報の発信」
- 3 「架け橋プログラム」の推進 (幼保小連携・接続)
- 4 「小中連携」の推進 (合同清掃活動、児童会・生徒会交流、授業見学等)

## ☆ 改革に向けた6つの方向性

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性 令和3年1月26日中央教育審議会答申より

- I 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する。
- II 連携・分担による学校マネジメントを実現する。
- III これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを実現する。
- IV 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる。
- V 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する。
- VI 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する。

教職員の皆さん、自校の課題や教育目標、  
求められる授業の在り方等を自分の言葉で語りましょう

【用語】

\*1 幸福。身体的・精神的・社会的に良好な状態。

\*2 ピアは「仲間」「同輩」、メディエーションは「調停」「仲裁」という意味があり、トラブル・もめごとで対立関係にある当事者の間に、第三者(メディエーター：調停者)が入って、話し合いで解決できるように援助する方法のこと。その考え方を基に、児童生徒同士のトラブルに対して、児童生徒同士で解決を図ろうとする活動のことをピア・メディエーションと言う。

\*3 多種多様な方法がある生徒指導におけるアセスメントの中で、心理分野・精神医療分野・福祉分野等で活用されているアセスメントの方法。児童生徒の課題を生物学的要因、心理学的要因、社会的要因の3つの観点から検討する。

\*4 ソーシャルスキル(社会技能)を身につけるための訓練。

【参考文献】 (参照日 2025.2.28)

○高橋 純 「1人1台端末を活用した高次の資質・能力の育成のための授業に関する検討」  
(日本教育工学会研究報告集 JSET2022-4-B1)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsetstudy/2022/4/2022\\_JSET2022-4-B1/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsetstudy/2022/4/2022_JSET2022-4-B1/_pdf)

○Google for Education 個別最適で協働的な学びの最前線！子ども主体で学びを進める”複線型授業”とは(富山市立芝園小学校)  
<https://www.youtube.com/watch?v=cZpgqX3mUE0>

